



双塔

カトリック新潟教会

2017年10月
No. 353

山上の説教

協力司祭 鎌田 耕一郎

(山) モーセを通じて、神が旧約の掟を与えるために選んだ場所は、雄大、荘厳なシナイ山であった。「雷といわずまと厚い雲とが、山の上により・・・全山はげしくふるえた」(出エジプト 19・18)。人々は恐怖の中に神の掟を聞いたのである。

新約の掟が告げられる時、神は再び山を選ばれるのである。「人々の群れを見たイエスが、山に登っておすわりになると・・・」(マタイ 5・1) 雷もいわずまもない平和な光景である。その丘の上から、真の幸福についてのみ言葉がひびいたのである。人びとは愕然として自分の耳を疑ったにちがいない。

「それまで人々は本能の導くままになっていた。偽りの神々を崇拜し、ぶどう酒の中に、肉の中に、黄金の中に、芸術のなかに、叡智のなかに幸福が見いだせると信じ」(パピニ"キリストの生涯")ていたからである。イエスのみ言葉は革命的なものだったのである。

(価値の転倒) 山上よりのみ言葉は、人々を当惑させるような価値の転倒を含んでいた。それは、財産に対し、隣人に対し、そして自分自身に対する、したがって生活の根本的な三つの領域に対する新しい関係を説き明かしている。

人間は生活のために、財産を必要とする。衣食住の配慮は、人間の生活に必然的なものである。それに対してイエスは思い煩わぬ心(マタイ 6・25)を説き、更にすべてをすてること(ルカ 12・33)をすすめるのである。

隣人に対する関係は、一定の権利と義務をともなう諸秩序によって規制されている。イエスは、すべての人間を、差別なく隣人(ルカ 6・27)と呼び、更に敵を愛し、憎むものに善、呪うもののために祈る(ルカ 6・27)ように命ぜられるのである。

すべての人間にとって最も大切な“私(自我)”に対して、イエスは十字架の自己否定(マタイ 16・24)を要求し、「道・真理・生命」(ヨハネ 14・6)である「私(イエス)を離れては、あなたたちは何一つ出来ない」(ヨハネ 15・5)といわれるのである。

人間の弱点や、世界の具体的諸関係にかまうことなく、絶対的に述べられるこれらの説教の前で、私たちは心の落ち着きを失うのを感じる。(ウルフ"山上の説教の現実性"参照)

しかし、イエス・キリストに従うものは、誰にも煩わされぬ静かな内的平和を守るだけでなく、神の国のために、山上の説教の理想を実践に移す気迫を持つべきであろう。

■ 信仰養成講座 ---- 9月2日(土)・9日(土) 13:30 ----

司教団メッセージ「いのちへのまなざし」は、1981年の聖ヨハネ・パウロ二世教皇来日から20年の節目となる2001年に発表された。それから16年を経て、いのちの尊厳を取り巻く社会環境は改善が見られず、また2001年当時には想定もしていなかった社会の変化や生命科学の飛躍的な発展、また東日本大震災と原子力発電所事故とその影響などを踏まえ、2017年3月に増補新版として新たに発表された。第一章は普通の聖書の教えとしてほとんど変更がないが、第二章以降は大幅な加筆・改訂がなされた。司教様は第二章以下について、「司教団が徹底的に議論をし、何度も草稿を書き直したうえで、最終的に全会一致で承認したものであり、現在日本の教会が現実の諸問題についてどう考えているかを述べているので、ぜひご自身でも目を通していただきたい。また、資料を準備していた時点とはこの数日で国際情勢も変化しているの、資料にはないが「戦争と暴力」の項目も読んでおいていただきたい」と話された。

講話から

- * 神は人間を「ご自分の似姿」(創世記1・26)として創造された。そして、造られたすべてのものは「きわめてよかった」と聖書は記している。ここに、いのちの価値の根源がある。
- * 教会が福音を宣べ伝えるということは、何よりもいのちの福音を宣べ伝えるということである。いのちが危機にさらされているとき、教会はいのちの尊厳を守るために、声を大にしていのちの尊厳を擁護する。
- * 生命倫理について。旧版発表時には想定されなかった生命科学の進展について、教会内には全面的否認と全面的容認の両極端の見解が存在することを司教団は承知している。教会はそのいずれにも傾くことなく、神の創造の業に協力するという人間の責任において総合的に判断している。

■ 敬老のお祝いと茶話会(三崎神父様霊名のお祝い) ---- 9月17日(日)9:30 ----

大型で非常に強い台風18号が九州に上陸し、新潟市でも強い風が吹きつけたこの日、三崎神父様の霊名のお祝いと敬老のお祝いの茶話会が行われた。美味しいケーキと語らいのコーヒーを頂きながらしばし歓談した後、みんなで四季の童謡を楽しく歌った。進行役から歌にまつわるエピソードが紹介され、楽しいだけでなく少しためになった時間を過ごすことができた。最後に歌った「あめのきさき」では、自然とコーラスパートを歌われた三崎神父様と信徒の老練なハーモニーがすばらしかった。

あゆみ

No.85 教会運営委員会

講座「知ってるつもり?! 典礼のしるし、ことば、動作」

指 導 主任司祭 ラウル神父

開催日時 2017年10月14日(土) 午前10時~11時

会 場 カトリックセンター研究室

事前に準備するものではありません。どなたでもお気軽にご参加ください。